8月

みんぱくウィークエンド・サロン

研究者と話そう

■展示観覧料が必要です。
※都合により、予定を変更することがあります。

国立民族学博物館（みんぱく）の研究者が来館された皆様の前に登場します！
「研究について」「調査している地域（国）の最新情報」「展示資料について」
などなど、話題や内容は千差万別！
どんどん質問もおよせください。展示場でお待ちしております。

※「どっぷりオセアニア――夏のみんぱくフォーラム 2011」期間中はオセアニアに関するお話をお届けします。

7日（日曜日）
時間：15 時から 16 時
話者：ピーター・マシウス　（国立民族学博物館　准教授）
話題：太平洋の島々の衣装と布
場所：オセアニア展示場

14日（日曜日）
時間：14 時 30 分から 15 時 30 分
話者：菊澤律子（国立民族学博物館　准教授）
話題：オセアニアのことばで数をかぞえよう！
場所：オセアニア展示場

21日（日曜日）
時間：11 時から 12 時
話者：白川千尋（国立民族学博物館　准教授）
話題：フシギなチカラ
場所：オセアニア展示場

28日（日曜日）
時間：14 時 30 分から 15 時 30 分
話者：関根理恵（国立民族学博物館　機関研究員）
話題：文化をまもる
場所：本館展示場内ナビひろば

1年間みんぱくに何度でも入館できる「みんぱくフリーパス（3,000円）」をご利用ください。

本館展示は何度でも無料で入館できます。他にも、みんぱくを楽しむための特典がいっぱいです。

特典◆本館展示の無料入館◆特別展示の観覧料割引
◆みんぱくミュージアム・ショップとレストランの10%割引
◆万博記念公園内および周辺施設での利用割引　など。
詳細については、財団法人千里文化財団までお問い合わせください。
（電話06−6877−8893／平日9：00 ～ 17：00）

編集後記

前号７月号では、今年３月に新しくなったオセアニア展示にちなんだ特集号を組んだが、本８月号は、前号より「海」というテーマを引きつぎ、世界各地での海と人とのかかわりに注目することにした。管理下におけば図りしれない富の源泉となりうる反面、板子一枚下は地獄というように未知と恐怖の対象でもあった海を、人びとは手なずけ、その管理や利用をめぐっては隣人の手からも権益を守ろうとしてきた。容易に可視的な国境を引けないうえ、交流や交易面から航行を妨げるわけにもいかないところにジレンマの種がある。四方海に囲まれた日本にとって領海問題は宿命と思えなくもない。

さて本号から編集長は、久保正敏にかわり庄司が担当することになった。３年にわたり編集の取りまとめで奔走された前任者の功績を継承しつつ、『月刊みんぱく』を一方的な広報の場としてだけではなく読者と民博とのフォーラムとしても活用していきたいと思う。（庄司博史）

●表紙：木彫板　地域 パラオ島　標本番号 H0130543 他

次号の予告

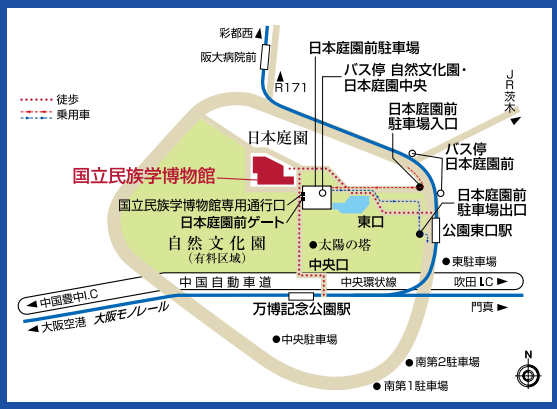
特集
特別展 千島・樺太・北海道 アイヌのくらし
ドイツコレクションを中心に

月刊みんぱく　2011 年 8 月号
第 35 巻第 8 号通巻第 407 号　2011 年 8 月 1 日発行

編集・発行　人間文化研究機構 国立民族学博物館
〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園 10-1
電話　06-6876-2151

発行人　八杉佳穂
編集委員　庄司博史（編集長）　樫永真佐夫　川口幸也
久保正敏　菅瀬晶子　中牧弘允　山中由里子
編集アドバイザー　山内直樹
デザイン　宮谷一款
制作・協力　財団法人 千里文化財団
印刷　日本写真印刷株式会社

＊本誌についてのお問い合わせは国立民族学博物館広報係にお願いします。
＊本誌掲載記事の無断転載を禁じます。



交通案内
●大阪モノレール「万博記念公園駅」・「公園東口駅」下車、徒歩約15分
●阪急茨木市駅・JR茨木駅・北大阪急行千里中央駅からバスで「日本庭園前」下車、徒歩約15分（茨木方面からは、もっとも近い「自然文化園・日本庭園中央」バス停で下車できるバスが1時間に1本程度あります。詳しくは阪急バスにお問い合わせください）。
●自家用車は、公園内の「日本庭園前駐車場」（有料）から徒歩約5分。「日本庭園前ゲート」横にある民博専用通行口をお通りください。
●タクシーは、万博記念公園「日本庭園前駐車場」まで乗り入れできます。

みんぱくホームページ
http://www.minpaku.ac.jp/